



## 強化指定選手発掘事業

フレッシュマンキャンプ 2026

< 報告書 >



一般社団法人日本 FID バスケットボール連盟

**JAPAN**  
BASKETBALL

## 強化指定選手発掘事業 フレッシュマンキャンプ 2026 報告

### ＜事業概要＞

1. 事業名：強化指定選手発掘事業 フレッシュマンキャンプ 2026
2. 事業目的：次世代の日本代表選手の発掘
3. 実施日：2026年9月4日（金）～9月6日（日）
4. 実施会場：清水ナショナルトレーニングセンター 静岡県静岡市清水区山切 1487-1
5. 宿泊会場：同上
6. 参加者

### 【スタッフ】

| 役職          | 氏名     | 性別 | 所属                    |
|-------------|--------|----|-----------------------|
| 強化責任者       | 原 美子   | 女性 | （一社）日本 FID バスケットボール連盟 |
| 男子ヘッドコーチ    | 小川 直樹  | 男性 | （一社）日本 FID バスケットボール連盟 |
| 男子アシスタントコーチ | 吉田 直樹  | 男性 | （一社）日本 FID バスケットボール連盟 |
| 男子アシスタントコーチ | 大川 達也  | 男性 | （一社）日本 FID バスケットボール連盟 |
| 男子アシスタントコーチ | 木下 直哉  | 男性 | （一社）日本 FID バスケットボール連盟 |
| 女子ヘッドコーチ    | 一松 倫子  | 女性 | （一社）日本 FID バスケットボール連盟 |
| 女子アシスタントコーチ | 花輪 希美圭 | 女性 | （一社）日本 FID バスケットボール連盟 |
| 女子アシスタントコーチ | 猪崎 智子  | 女性 | （一社）日本 FID バスケットボール連盟 |
| 女子アシスタントコーチ | 齊藤 桃子  | 女性 | （一社）日本 FID バスケットボール連盟 |
| 女子アシスタントコーチ | 高橋 優花  | 女性 | XD                    |
| チームトレーナー    | 山崎 美和子 | 女性 | （一社）日本 FID バスケットボール連盟 |
| トレーナー       | 杉本 将   | 男性 | （株）ENTAMEDICAL        |
| アスレチックトレーナー | 海野 祐生  | 男性 | スポーツ堂整骨院              |
| 看護師         | 原田 彩加  | 女性 | （一社）日本 FID バスケットボール連盟 |
| チームオペレーション  | 大沼 弘法  | 男性 | （一社）日本 FID バスケットボール連盟 |
| チームオペレーション  | 吉田 朋代  | 女性 | （一社）日本 FID バスケットボール連盟 |
| チームオペレーション  | 吉田 通子  | 女性 | （一社）日本 FID バスケットボール連盟 |
| チームオペレーション  | 氣田 陽介  | 男性 | （一社）日本 FID バスケットボール連盟 |
| チームオペレーション  | 関 圭子   | 女性 | （一社）日本 FID バスケットボール連盟 |

### 【男子選手】

| 氏名    | ブロック | 都道府県 | 年齢 | 所属クラブ           |
|-------|------|------|----|-----------------|
| 松本 昌司 | 関東   | 神奈川県 | 22 | YOKOHAMA MAJORS |
| 小嶋 一彰 | 関東   | 神奈川県 | 22 | AST             |

|       |        |     |    |                      |
|-------|--------|-----|----|----------------------|
| 徳邑 瑛治 | 九州     | 福岡県 | 20 | 福学クラブ                |
| 谷川 詩彦 | 九州     | 福岡県 | 19 | 福学クラブ                |
| 後藤 謙斗 | 中国・四国  | 山口県 | 22 | TAC 田布施アスレチッククラブ     |
| 小杉 真也 | 中国・四国  | 山口県 | 17 | 山口県宇部総合支援学校          |
| 根本 香楓 | 北海道・東北 | 福島県 | 17 | 福島クラブ                |
| 安藤 麗希 | 九州     | 宮崎県 | 25 | ブルーホーク               |
| 川西 風雅 | 北海道・東北 | 北海道 | 18 | OKS フェニックス           |
| 寺岡 恭介 | 北海道・東北 | 北海道 | 18 | OKS フェニックス           |
| 野田 勇気 | 東海・北信越 | 長野県 | 20 | 諏訪サンダーバード            |
| 横山 悠太 | 九州     | 佐賀県 | 19 | SAGA FID バスケットボールクラブ |

#### 【女子選手】

| 氏名     | ブロック   | 都道府県 | 年齢 | 所属               |
|--------|--------|------|----|------------------|
| 伊藤 沙優  | 関東     | 群馬県  | 19 | 彩の国レッド♡キング       |
| 松尾 美木  | 関東     | 群馬県  | 18 | 彩の国レッド♡キング       |
| 鈴木 亜夏音 | 関東     | 群馬県  | 20 | 彩の国レッド♡キング       |
| 工藤 真鈴  | 中国・四国  | 山口県  | 16 | 山口県宇部総合支援学校      |
| 山岸 妃夏  | 東海・北信越 | 長野県  | 18 | CHKUMA NEW HOPES |
| 齋藤 楓佳  | 東海・北信越 | 長野県  | 18 | CHKUMA NEW HOPES |
| 土屋 愛海  | 東海・北信越 | 静岡県  | 16 | 静岡クラブ            |
| 桂田 香菜  | 関東     | 埼玉県  | 20 | エンジェルス           |

#### 7. 全体スケジュール

|    | 9/4 (金)                                                                       | 9/5 (土)                    | 9/6 (日)                          |
|----|-------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|----------------------------------|
| 早朝 |                                                                               | ・男子：シューティング<br>・女子：シューティング | ・男子：シューティング<br>・女子：シューティング       |
| 午前 |                                                                               | ・男子：練習（スクリメージ）<br>・女子：練習   | ・男子：練習（スクリメージ）<br>・女子：練習（スクリメージ） |
| 午後 | ・チーム集合<br>・全体ミーティング<br>・男子：コンディションチェック<br>基礎体力測定<br>・女子：コンディションチェック<br>基礎体力測定 | ・男子：練習（トレーニング）<br>・女子：練習   | ・チームミーティング<br>・チーム解散             |
| 夜間 | ・男子：シューティング<br>・女子：シューティング                                                    | ・男子：シューティング<br>・女子：シューティング |                                  |



男子代表チーム  
ヘッドコーチ 小川直樹

### 【男子総括】

全国6ブロック並びに連盟登録チーム等からの推薦により、男子11名とコンディション調整を続けてきた今年度の代表候補選手1名を併せて12名が今年度のフレッシュマンキャンプに参加をした。

実施内容は例年と同様な形で行われ、初日にメディカルチェック及びデータ測定。2日目以降は実戦形式が主となったが、全体スケジュールにも記述されている通り、朝から晩までバスケットボールに取り組める最高の環境の中で有意義な時間を過ごし、選手にとっては貴重な経験となったに違いない。

初日の全体ミーティングでは今年度の日本代表活動方針の資料に沿って、「日本代表チームとは？」から始まり、「今年度の目的・目標」「選考基準並びに評価項目」等を説明した。日本代表チーム用に作成をした資料であるが、今回参加している選手たちに置き換えながら話を進めた。選手の所属先コーチや保護者にもミーティングに参加をしてもらい、どのような環境下でどのような活動をしているのかということとはご理解いただけたことと思う。

### 現在の日本代表チームのルール

- ① やってもらって当たり前という感覚はこのチームの中に於いては通用しない。
- ② 謙虚な姿勢を持ち、常に感謝の心を持ち続け活動すること。

我々は数多くの方々のご支援ご協力を賜りながら活動が成り立っている。実際に今事業も公益財団法人ゴールドウイン西田東作スポーツ振興記念財団様より助成を受けて実施している。自己管理の徹底と謙虚な姿勢と感謝の2点に関しては絶対に譲れない思いが今までの活動を通じて代表コーチングスタッフにはあり、日の丸をつけて活動する以上、厳守してもらいたいと伝えた。これは単にバスケットボールだけの話ではなく、一般社会で生活をする上でも非常に重要なことであるとも加えた。

今回参加をした選手の中にはミニバス経験者も存在し、競技に関わっている時間は長い。然しながら、走る、飛ぶ、止まる、投げる、当たる等、競技に於ける基本的動作の細かな部分を体現できないこともあり、都度説明が多くなった。また、プレーに於いては状況判断が鈍く、各自が状況確認するために「自分の目で見て判断をする」という習慣が無く、常に感覚でプレーする選手が多かった。このような習慣は日々の反復から改善されていくものであり、所属チームに戻っても実践していただきたい。

現代社会は情報過多であり、SNSを開けば競技に関するドリルの紹介や戦術の説明等が数多く存在する。ヒアリングしたところ参加した選手たちも参考のために活用しているという。我々日本代表チームはファンダメンタルを重視し、基本の確立が出来なければ上積みすることは限りなく厳しいと選手に伝えている。土台となる基本の面積を広げ、その上に上積みし、同時に戦術を加えながら選手を育成し、チームを強化しているということを練習中にも選手へ伝えた。見て学ぶことも必要であるが、正しい知識を理解し実践することが重要であり、決して感覚ではない。この部分に関しては見学に来られた所属先のコーチとも期間中に多く議論を繰り返した。

今回の参加選手たちは、指導を受けたことを吸収しようとする意識や実践しようとする意欲も高く、評

価に値する。このようにトライアンドエラーを繰り返し行うことで一歩前進が出来るものと感じている。限られた時間の中で、参加した選手の状況を確認し、プログラムを作成し提供をしたが、今回のキャンプを経験し、プレイヤーとして、また人として更に成長されることを期待すると共に、来年度代表チームに召集される選手が1人でも多く選出されることを願いたい。

最後に、今事業に際し多大なるご支援を賜りました公益財団法人ゴールドウイン西田東作スポーツ振興記念財団様にチームを代表して心より感謝を申し上げ、男子総括と致します。



男子代表チーム  
コーチ 吉田直樹

#### 【所見】

2026年度のフレッシュマンキャンプは、2026年9月4日から6日までの2泊3日の日程で実施し、全国各地から男子12名、女子8名の計20名が参加をした。

今回の参加者には、数年連続で本キャンプに参加している選手がいる一方、初めて参加する選手もあり、経験や習熟度の異なる選手が集まるキャンプとなった。

継続参加者には、これまでの経験を生かして積極的に練習へ取り組む姿を期待したが、初日から中日までは中々本来のパフォーマンスが出せず、中日午後から最終日にかけて積極的なプレーが見られた。

本キャンプで得た知識や経験は、期間中だけのものとするのではなく、それぞれが所属チームへ戻った後も継続して取り組むことが重要である。今回学んだ内容を日頃の練習の中で実践し、習慣として身につけることで、キャンプへの参加意義がより一層大きなものになると考える。

今後も、次世代を担う選手の発掘および育成の機会として本活動を継続するとともに、よりよい環境整備の充実に努めていきたい。

今事業に際し多大なるご支援を賜りました公益財団法人ゴールドウイン西田東作スポーツ振興記念財団様に心より感謝致します。



日本男子代表チーム  
コーチ 大川達也

#### 【所見】

今年度のフレッシュマンキャンプを、9月4日から6日までの3日間、清水ナショナルトレーニングセンターにて実施した。初日の全体ミーティングでは、代表活動について、代表チームが目指していることや選手に求めていることを共有した。

練習前には代表トレーナーを中心にメディカルチェックを実施した。マルチシャトルラン（持久力測定）では参加選手の平均記録が99.5回、最高記録が130回となった。その後のシューティングドリルでは、ミートやキャッチングといったファンダメンタルの部分に課題を抱える選手が多く見られた。これは、例年のフレッシュマンキャンプにおいても指摘されている点である。一つ一つの動作は細かなものではあるが、その習得

度合いはバスケットボールのスキル向上に直結する。また、単に「できる」だけではなく、「なぜその動作が必要なのか」という意図を理解しながら取り組むことが重要であり、バスケットボール I Q の向上も必要である。特に、過去にもフレッシュマンキャンプに参加している選手については、求められていることに対する日常的な取り組みや徹底が、まだ十分ではないように感じられた。

バスケットボールの動作だけでなく、「何を目的としてフレッシュマンキャンプに参加しているのか」「自分自身がどのような選手になりたいのか」を明確にし、日頃の練習から意識して取り組んだ上で今回のキャンプに参加することが重要である。この点は代表選手にも共通して言えることであり、代表を目指す参加選手には、今回学んだことを自チームに持ち帰り、これまで以上に意識して実践することを期待したい。2 日目と3 日目の午前中にはスクリメージを行った。ランニングプレイからの得点や、コンタクトを嫌がらずにリバウンドやディフェンスに取り組む姿、積極的にコースに入りドライブを止めるなど、随所にグッドディフェンスも見られた。そのようなプレーを見せた選手には、「自分がやってやろう」という気持ちを前面に出してプレーしているという共通点があった。一方で、自分の強みを十分に発揮できなかったり、その場の雰囲気や飲まれて自分の良さを出せなかったりする選手も多く見られた。今後、より高いレベルを目指していくためには、経験を積むことに加え、自分自身の得意なプレーや苦手なプレーを理解する「バスケットボールにおける自己理解」が必要である。

3 日間を通して、トレーニングや各種ドリルに懸命に取り組む姿が見られた一方で、基礎動作に対する理解が浅く、日常的に「ただ行っている」ように感じられる場面も目立った。特に、「止まる」「支える」といった基本的な動作を重点的に見直し、バスケットボールに必要な姿勢を身に付けることは、全体としての課題である。今回のフレッシュマンキャンプで得た経験や課題を自チームに持ち帰り、日々の練習の中で継続して取り組むことが重要である。参加選手一人ひとりが今回の経験を成長につなげるとともに、それぞれのチームにおけるスキルレベルの着実な向上につながることを期待したい。



男子代表チーム  
コーチ 木下直哉

#### 【所見】

今回のフレッシュマンキャンプには各ブロックから推薦を受けた 11 名とコンディション調整を続けてきた今年度の代表候補選手 1 名の計 12 名の選手が参加した。初招集の選手は少なく、その多くが過去にも同キャンプへの参加経験を持っていたため、これまで実施してきた継続的な育成の成果を改めて確認する良い機会となった。

参加選手たちは、一日フルにバスケットボールに取り組む環境となっており、各コーチから細かな指導を受ける中、選手一人ひとりにとって今後の成長に向けた意識向上につながる貴重な経験となったと考えられる。

#### 【課題】

今後の課題としては、選手たちが今回のキャンプを通じて学んだ基準や姿勢を自身の所属チームへと

持ち帰り、日々の活動に還元させることが重要である。

フレッシュマンキャンプで得た気づきや経験を所属先でも継続して実践させることで、将来的な代表候補として着実にステップアップしていけるよう、代表強化と育成を一体的に進めながら継続的なアプローチを行ってきたい。



日本女子代表チーム  
ヘッドコーチ 一松 倫子

#### 【女子総括】

今回のフレッシュマンキャンプは、8名の選手が参加した。選手の推薦については、強化委員会での推薦書の検討や、ブロック委員や各選手の所属チームのコーチにフレッシュマンキャンプの趣旨や目的を共有したうえで、推薦するに至った選手たちである。参加選手はそれぞれの所属チームにおける活動と県選抜チームにも選出される選手であったが、バスケットボールの経験年数は様々で、指導や練習メニューに対する指示をイメージしてプレーできる選手がいる一方で、身体の使い方やボールの扱いに未熟さが見られる選手がおり、レベルは様々であった。

また、3人制バスケットボールの経験がなく、ルールの確認や、5人制との違いや競技特性を説明することから始めた。3x3のボールに慣れるための、ハンドリング、パス、シューティングドリルなど、基礎的な練習を中心に行いながら、1on1や3on3の対人練習、切り替えを繰り返す3on3と段階を経てミニゲームを実施した。コミュニケーションの練習として、わからないことを、チームメイトと確認しあったり、自分からスタッフに質問したりするようにした。

コミュニケーションに関して多くの選手が苦手意識をもっているようだが、ミニゲームを終えてチームで集まると、はじめは3x3のルールに対しての確認が多かったが、徐々にチームとしてうまくいかなかったことに対してアイデアを出し合い、修正しようとする様子が見られた。今合宿を機に、バスケットボールや3x3への関心が深まり、向上心が高まることを期待したい。

今回から、参加選手の所属チーム関係者並びにコーチと情報交流の場を設けるようにした。所属チームのコーチからはチーム事情や推薦選手についての報告があり、代表チームのコーチからは日々の体調管理やオンライントレーニングなど、代表チームの合宿以外の活動についても説明を行った。このような情報交流の機会の必要性を双方の協力が不可欠であると確認することができた。

最後になりますが、この度のフレッシュマンキャンプの実施にあたり、ゴールドウイン西田東作スポーツ振興記念財団様より温かいご支援と助成を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。今回のご支援を励みに次世代の選手発掘、強化育成に取り組んでまいります。ありがとうございました。



日本女子代表チーム  
コーチ 花輪 希美 圭

#### 【所見】

今回はフレッシュマンキャンプ参加者 8 名で実施し、そのうち 1 名は 2 回目の参加となった。人数も多く活気のあるキャンプとなり、選手同士のコミュニケーションもよく取れており、互いに刺激を受けながら充実した活動を行うことができた。

フレッシュマンキャンプとしてのねらいは昨年度同様、3 × 3 競技の体験を通してルールを理解すること、5 人制競技との違いを実感すること、自分の強みや課題を知ることとした。ルールについては参加者全員が比較的早く適応し、「難しいけれど楽しい」という感想も聞かれ、3 × 3 競技への関心や意欲が感じられた。また、代表選手とともに練習することで、プレーの質や判断の速さなど高いレベルを肌で感じる事ができたと考える。将来目指すべき姿を具体的にイメージする貴重な経験となり、選手たちの向上心も強く感じられた。今回見つけた課題に継続して取り組み、今後の代表候補選手、さらには代表選手を目指して努力を続けてほしい。

#### 【課題】

まずはフィジカル面の強化である。3 × 3 は 5 人制競技と比較して攻守の切り替えが多く、常に高い強度でプレーすることが求められる。そのため、長時間走り続ける体力だけでなく、瞬間的なスピードを何度も発揮できる身体づくりが必要である。

次に、シュートまで持ち込む力である。国際大会では海外選手のフィジカルや守備強度が高く、5 人制であれば打てるようなノーマークのレイアップシュートであっても、簡単には打たせてもらえない場面が多く見られる。そのため、マイカンドリルなどの基礎練習を通して、どのような体勢からでも確実にシュートへ持ち込む力を養う必要がある。また、ディフェンスが整う前の速いタイミングでシュートを打つ技術や判断力の向上も求められる。

さらに、代表選手を目指す上では基礎基本の徹底が不可欠である。強いドリブルをつくこと、正確で力強いパスを出すこと、素早い切り返しができること、トップスピードから確実に止まれることなど、一見地味な技術の積み重ねが競技力向上につながる。高度な技術を身につける前に、まずはこうした基礎基本にどれだけこだわって取り組めるかが重要である。チーム練習だけでは十分な時間を確保することが難しい場合もあるため、今回見つけた課題については自主的に練習時間を確保し、地元の指導者にも助言を受けながら継続して取り組んでもらいたい。

終わりに、今回のキャンプ実施にあたり、多大なるご支援を賜りました（公財）ゴールドウイン西田東作スポーツ振興記念財団様をはじめ、選手派遣にご協力を賜りました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。参加選手にとって大変有意義な経験となりました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



日本女子代表チーム  
コーチ 猪崎 智子

#### 【所見】

今回は全国各地から8名のフレッシュマンが参加をした。1日目は、シャトルランの測定のと、日本代表選手が実践している内容と同じウォーミングアップとコーディネーション、そして3×3のミニゲームを行った。初めは慣れないボールやルールに戸惑う姿も見られた。夜は、3×3について、5×5との大きな違いやルールの説明、そしてFID3×3女子日本代表が目指すものについて講義を実施した。単にルールを覚えるだけではなく、これから自分たちが取り組む3×3がどのような競技であり、日本代表として何を目指しているのかを知ることで、競技に対する理解や意識を高める機会になったと感じた。

翌日の2日目からは、選手たちの表情にも変化が見え始め、練習の合間に笑顔が見られるようになり、ボールや環境にも徐々に慣れながら、意欲的に練習に取り組む姿が増えてきた。もちろん、講義だけがその変化の要因とは言い切れないが、3×3という競技への理解が深まり、「何をやっているのか」「何を目標しているのか」が少し明確になったことが、選手たちの積極的な姿勢につながったのではないかと感じている。

今回のフレッシュマンキャンプでは、まず競技を知り、実際に体験するという過程を大切にしてきた。今後チームに戻っての活動の中でも、今回感じた楽しさや意欲を大切にしながら、3×3への興味や理解をさらに深めて欲しいと思う。

最後になりますが、今回のフレッシュマンキャンプを実施するにあたり、選手たちを送り出してくださった関係者の皆様、安心して集中できる環境を提供してくださった清水ナショナルトレーニングセンターの皆様、そしてフレッシュマンキャンプの開催にご理解、ご支援をいただいた公益財団法人ゴールドウイン西田東作スポーツ振興記念財団様に心より感謝申し上げます。



日本女子代表チーム  
コーチ 齊藤 桃子

#### 【所見】

仕事の都合で、5日と6日の二日間だけの参加となったが、全体としては三日間の日程だった。それぞれの選手たちが、こんなにたくさんバスケットができる環境が普段はないので、貴重な経験になりましたと話してくれていたことが印象的だった。

普段とは違ったルール、環境でのバスケットボールということで、はじめは3人制と5人制の違いに戸惑っているように見受けられたものの、いざ試合形式をしてみるとそれぞれに自分のできることを表現しようとする姿が感じられた。ルールの理解や対応の難しさ、実践を通して5人制と3人制の身体の使い方や、考え方の違いなども身体で感じられたことと思う。

今回の合宿で感じたこと、練習したことをそれぞれの選手たちが各チームに持ち帰り、次また会えた時に、課題克服への一歩になっていることを願う。

最後に、合宿を実施するにあたりご支援をいただいた公益財団法人ゴールドウイン西田東作スポーツ振興記念財団様をはじめ、ご協力いただいた関係者の皆様、保護者の皆様、スタッフの皆様、たくさんの

方々のおかげで選手たちと一緒に活動ができていることに感謝申し上げるとともに、清水ナショナルトレーニングセンターの皆様のおかげで、とても素晴らしい環境の中で合宿をさせていただけたことに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



日本女子代表チーム  
コーチ 高橋 優花

【所見】

2026年9月4日～6日にかけて「強化指定選手発掘事業フレッシュマンキャンプ 2026」が実施され、私自身は5日、6日の2日間にコーチとして参加をした。

期間中は、選手間でコミュニケーションが図られ、非常に明るい雰囲気かつ良い緊張感を持って練習に臨むことが出来ており、感心した。また積極的な姿勢も見られ、わからないことや中々理解が出来づらいこともコーチに確認することも多かった。このような姿勢は目的意識が明確になれば見られないことであり、今回参加をした選手たちは望みが高い選手が多く感じられた。

また、各地域のコーチとお話する中で、地域によってはFIDバスケットボールの活動自体がまだ知られていないと感じる部分があった。今後の育成を考えた際、社会人になっても安心して競技を継続できる環境があることをしっかり示していくことが非常に大切だと考える。社会人での競技継続率が低下している現状において、本活動の認知を広げ、環境を整えていくことが極めて重要なポイントになると再認識した次第である。

選手派遣に際しご協力を賜りました関係者に皆様、また今事業に多大なるご理解ご支援を賜った（公財）ゴールドウイン西田東作スポーツ振興記念財団様に心より感謝申し上げます。



日本代表チーム  
トレーナー 山崎美和子

【所見】

本合宿は各ブロックから推薦された男子11名（1名怪我により辞退）と代表選手1名、女子は8名が参加となった。

事前の情報から男子選手は糖尿病、女子は肩関節の脱臼歴のある選手、食品のアレルギーを持っている選手がおり、初日のコンディションチェックで詳細を確認しコーチ陣にも状態を共有しサポート体制を整えた。

コンディションチェック時に怪我をしている選手も数名いたが、持参したサポーターやテーピング対応にて参加可能なレベルであった。

日程の中で大きな怪我、体調不良はなく完全離脱はなかったが、2日目の午後に女子選手でもともと負傷している膝を強打したため、一時離脱をしたが夜練習から参加可能であった。男子選手では負傷ではないが両足関節の違和感を訴えたため状態を確認し、テーピングにて固定対応にて練習に参加して

いる。

#### 【合宿を終えて】

今回のフレッシュマンキャンプでは朝のコンディションチェックをチェックシートに選手自身に記入をして提出する方法をとった。代表選手は毎日の体調報告が義務付けられている、それを疑似体験してもらうことで代表選手が行っていることを知ってもらうことが狙いであった。

また、男子選手には2日目の午後の時間の中でトレーニング指導を実施した。選手からトレーニングのやり方、何をしたらよいかわからないという声が聞かれたため体の使い方、基礎的な自重トレーニングの指導を実施した。ポイントを説明しながら行うことでほとんどの選手がそれぞれのトレーニングの効果を感じることができたので、チームに帰っても継続して欲しいと願う。代表選手にも伝えているように、トレーニングをするのはバスケットに活かすためという話が心のどこかに残っていて欲しい。女子選手にはクールダウンのストレッチ指導をし、どこを伸ばしているのか確認しながら行うことを意識するように伝えながら行った。普段の練習後や、張り感があるときには積極的にストレッチなどを行うように伝えているので実践をして欲しいと願う。

この合宿から代表に招集される選手がいるということを考えたときに、コンディション調整の意識の持ち方などを伝えるなどトレーナーとしての役割は多いと感じた。2泊3日という合宿が実りのあるものになるよう今後コーチ陣とも相談しながら選手のサポートの仕方を検討し、実施していく次第である。

最後となりますが、合宿期間中の食事や活動しやすい環境を整えてくださる清水ナショナルトレーニングセンターのスタッフの皆様、そして今回助成を賜りました公益財団法人ゴールドウイン西田東作スポーツ振興記念財団様に心より感謝申し上げます。



# 2026 年度 FID 日本男子・女子代表チーム

## サポート企業・団体・サポーター様

### 株式会社デンソー 様

株式会社アイズ・カンパニー様 株式会社 GRACE 様  
株式会社 FIELD MANAGEMENT STRATEGY 様  
株式会社 CIJ ネクスト様

株式会社笹森様 株式会社誠行社様 わだ薬局様  
株式会社ドリームビレッジホールディングス様  
株式会社サンシップ様 山崎自動車様  
合同会社寿老人様 株式会社はちはち様

株式会社ほけんの 110 番様 株式会社田辺電業社様  
横浜税理士法人様 ナトリ電設株式会社様  
株式会社ジャパン・スリーブ様 酒と肴さえぐさ様  
有限会社ベルセブン様 株式会社ヒライ様

### 株式会社 TLH 様

株式会社凸様 NPO 法人チームふくしま様 株式会社アルバ様  
ムーングローダイナー様 イワテックカンパニー様 サンオプチカル株式会社様

石上 岳彦様 野田 悟様 須藤 昭宏様 須藤 昂矢様 杉本 正毅様 中村 昭男様  
山田 謙治様 折笠 常弘様

|        |        |         |         |        |          |        |        |
|--------|--------|---------|---------|--------|----------|--------|--------|
| 野崎 龍華様 | 伊勢 徹様  | 奥野 智佐之様 | 蜷川 稔様   | 足立 哲哉様 | 古川 雅司様   | 古川 千秋様 | 前田 陽介様 |
| 笹森 勝義様 | 田名 哲也様 | 草山 堅吾様  | 中山 克良様  | 高橋 徹様  | 南原 勝一様   | 鶴谷 伸之様 | 岩村 浩人様 |
| 鶴岡 将文様 | 大野 敦史様 | 和田 洋幸様  | 小森 健太郎様 | 小林 千夏様 | 武ノ内 由紀子様 | 小玉 隆史様 |        |
| 大塚 一義様 | 辻元 由美様 | 川口 正高様  | 川口 美樹様  | 大村 亜理様 | 角田 正博様   | 菊地 敏治様 | 富田 順也様 |
| 肥後 達也様 | 杉本 弘毅様 |         |         |        |          |        |        |

多大なるご支援ご声援、連盟一同感謝申し上げます

